

## 巻頭言 — 時間・空間の座標軸に位置づく確かなトランジション

Preface: Intentional transition plotted on the coordinate axis of time and space

自由や民主主義、個人主義は現代の市民社会が獲得してきた現代の社会思想である。自由は個人を基本とするが、それでも社会人としての責任が伴う。民主主義は衝突回避の良い方法で、話し合いによってとりあえずの妥協を探るために多数決をするが、少数意見を必ず尊重する。個人主義は利己主義ではなく、他の人もまた個人であるので、ここに個人主義としての思いやりがあるはずである。

人の世の歴史は繰り返すともいうが、それでも人は文化的に進化し、よりよい社会システムを広げていくのだと思う。しかしながら、他方では自由や民主主義、個人主義を圧する社会的衝突が繰り返されているという現実がある。私たちは歴史的な時間軸と現代的な空間面に生きており、短い人生において、この日常から逃れることができる人がいても、それはとても少ないだろう。欲望は人を良くも悪くもするので、欲望は知的な個人の意思で制御する必要がある。他から強要される規制でないことが、自由や民主主義、個人主義を活かすことである。

科学は、現場において実物を観察、調査、実験するなどによって事実を明らかにし、これにのみ基づいて考察し、真理を導くものであってほしい。たとえ、実験結果の解釈を誤ったとしても、元の事実には虚偽が入らないはずである。科学者は正直に虚偽のない意見を言うべきであり、また、分らないことは解らないと言ってよい。ところが、社会は事実に沿わないことを求め、正直な意見は規制され、黙殺され、不都合な事実は歪曲され、隠蔽されてしまうこともある。環境に関する課題解決には科学的事実を公表することにおいて公正さが求められる。

ピーク・オイルを過ぎたといって、すぐに石

油がなくなるわけではない。特に、精製された石油製品はとても便利だから、どれほど製品の価格が高くなっても、航空機燃料などの特定用途には欠かせないであろう。

1世紀に満たない石油製品の利用は徐々に縮小していき、それより長いトランジションの時代が来るのであろう。地震、津波、台風、洪水などの自然災害とこの国では共存せねばならない。恐ろしい自然は一方で水や森、多様な生物という豊かな恵みをもたらしている美しい自然でもある。

福島の子力発電所の崩壊を侮ってはいけない。単なる事故ではなくて、広範な陸地も海洋も放射性物質で汚染している。放射線は生体に損傷を与えるばかりか、生殖質に変異を起こさせるので、末代にまで影響を与える。たとえ低レベルとはいえ、東京とてすでに汚染されており、私たちは被爆から逃れて暮らすことができない。

国際民族生物学会が開催されたフランスのモンペリエは生物文化多様性を大切にしている街であった。時期を同じくして生物多様性フェスティバルが開かれ、コムギやイネの多様性保全、トランジション・タウンの展示もあった。トランジションは不公正、不平等、不自由な社会的慣習を含む封建社会に戻るということではなく、地域社会固有の伝統的知識から学び、未来につながるように「素のままの美しい暮らし」を再発見、再創造することである。人類を存続させたいのなら、伝統的知識に敬意を払い、科学的知識ばかりを偏重しないで、双方の共存を受容することである。

2012. 07. 01

木俣美樹男 Mikio KIMATA

